

1 単元名 テニピン

2 単元の目標

- 相手が取りやすい返球の仕方を理解し、力加減を調節しながら相手に打ち返したり、ラリーを続けたりすることができる。 (知識及び技能)
- ボールを上手く打ち返すための方法や体の使い方などについて考えたり、伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ルールを守り、仲間と励まし合いながら、進んで練習やゲームに取り組むことができる。 (学びに向かう力・人間性等)

3 授業の実際

(1) 授業づくりの基盤

- テニピン用のラケットとボールが30セットあるため、1人1セット使用しながら取り組んだ。
- 初めてテニピンに取り組んだ学年。
- ダブルスで卓球のように交互に打ちながらラリーを続けることを最終目標とした。

(2) 単元のながれ

- 毎時間練習タイムを取り入れ、4グループでローテーションしながら基本的な動きを身に付けられるようにした。  
(①壁打ち②かご入れ③一人でボールポンポン④2人ペアラリー)
- 2人ペアでラリーを行う際に、ボールをワンバウンドでキャッチする練習を行った。
- ラリーをする際、相手のコートにボールを上手く返球することができない児童が多くいたので、キャッチをしてから続けても良いこととした。
- コートは、カラーコーンと安全バーを使ったラインを示し、横と後ろのラインは決めずにラリーを行った。

4 成果 (○) と課題 (●)

- 昨年度ラケットとボールを購入したことで、児童全員に用具がいきわたり活動量の確保ができた。
- ペアでボールを打ち合ってみた際、最初はとにかく相手に向かって低い球や真っすぐ速い球を打っていたので、ワンバウンド(ツーバウンド)でラリーを長く続けることができる工夫を考えさせたところ、相手が返しやすいような位置にバウンドさせようとよく狙って打とうとする意識が高まった。その結果、力の調節やふわっと高く上げて打ち返す体の使い方が身に付いた。
- 体育館の使用割当、学年行事、学校行事の関係で体育館での体育の時間がとれなかったことがあり、授業時間が3時間しか取れなかった。1学期、または3学期に実施した方が時間を確

保できたかもしれない。

●打ち返せそうな球でも全部キャッチを入れて、ラリーを続けるグループがあった。展開が流れる感じでなく、途切れ途切れになるのでラリーといえる活動ではなかったように思った。逆に、どんな球でも無理に打ち返そうとするグループもあったので、そこの判断について考え、実践する時間があると良かった。

## 5 記録写真

